

近年、公立高校・私立高校を問わず、上位レベル校の入試における合否を決めるポイントは、国語としてやや高度な「読解力・記述力（表現力）」の習得にかかっています。

この高いレベルでの「読解力・記述力（表現力）」が試される問題に対応するためには、基礎レベルの文法や言葉の知識の習得は言うに及ばず、比較的古い文章を読むことに慣れ、論旨や主題を把握する力を伸ばすとともに、日頃から自分の考えを明確に表現し、記述する力を養うために、実践的な練習を十分に積んでおくことが必要です。

本書は、この「読解力・記述力（表現力）」が試される多種多様な文章を高校入試問題より精選し、さらにオリジナル問題も加え、系統を分類して、それぞれに対して力をつけることができるように編集しました。骨のある読解問題や、字数の多い文章記述問題を数多く取り上げています。じっくりと時間をかけて取り組むことで、国語力を大いに高めてください。

◎本書の使い方

〔過去問例題〕

過去の入試問題で使用された文章を用いた問題です。問題の形式や「どのようなことが問われるのか」をつかみましょう。個々の問題には、**着眼点**として解答の進め方を載せています。解答の糸口がつかめないときは、参考にしてください。

〔オリジナル問題〕

頻出の著者・作品を扱ったオリジナル問題です。まず自分の力で解いてみます。その後解説を読んで、解答の導き方・文章記述問題の書き方を理解しましょう。また、解答・解説には、「本文の要旨・あらすじ」と本文理解のための「ポイント」を載せています。それらを読んで、文章の要旨や主題がつかめていたかどうかも確認してください。

※文章記述問題の取り組み方―別冊「記述問題練習ノート」について

文章記述問題の解答用に、二百字のマス目「記述問題練習ノート」を用意しました。文章記述問題は、何度も練習して文章記述のコツをつかむことが大切です。初めはうまく書くことができなくても、模範解答を書き写して文章の流れをつかみ、再び書いてみるなどの反復が実力の養成につながります。「記述問題練習ノート」を自由に活用しましょう。

◎もくじ

随筆 4	98
随筆 3	90
随筆 2	84
随筆 1	80
小説 4	72
小説 3	64
小説 2	56
小説 1	52
論説 8	44
論説 7	36
論説 6	28
論説 5	22
論説 4	16
論説 3	10
論説 2	6
論説 1	2

論説1

過去問例題

オリジナル

○ 過去問例題

○ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

本文

15

10

5

本文

40

35

30

25

20

本文

問一

——線1「どうしようもないものを遠ざけると、人は大きくなる」とあるが、これを説明したものととして最も適するものを次の中から一つ選び、記号に○をつけなさい。

- ア 抑圧するものを忌避すると、人間の尊厳が生まれるということ。
- イ 技術的な限界を回避すると、人間は地球を支配するということ。
- ウ 限界を捨てると、人間が過大評価されるようになるということ。
- エ 死を遠ざけることによって、人間が精神的に強くなるということ。

着眼点 「人は大きくなる」とはどういうことかを考える。

問二

——線2『ありました』といわれるおじいさんおばあさんと、『いました』といわれるおじいさんおばあさんでは、別人のように思えないだろうか」とあるが、筆者は両者にどのような違いを感じているのか。次の①～③の条件を満たして書きなさい。

50

45

問三

本文中の□A・□Bに入れる語の組み合わせとして最も適するものを次の中から一つ選び、記号に○をつけなさい。

- ア A 抽象性 B 具象性
- イ A 具象性 B 抽象性
- ウ A 存在者 B 行動者
- エ A 行動者 B 存在者

着眼点

「ありました」と「いました」の特徴を本文からとらえる。

問四

この文章について述べたものとして適切でないものを次の中から一つ選び、記号に○をつけなさい。

- ア 現代の人間は高慢になり、自らが死という宿命を背負った存在であることを忘れている。
- イ 自己制御性は人間だけが持ちうる能力であり、その支配の可能性をできるだけ大きくしていく必要がある。
- ウ 語り継がれてきた昔話の語り出しの表現の変化は、時代の変化にもなっている。
- エ 人間は自身のうちに限界を抱えており、それを引き受けることが大切だが、むやみに卑下することはない。

着眼点 「人間」は本来どのようなもので、どうあるべきかを考える。

「人間」は本来どのようなもので、どうあるべきかを考える。

- ① 段落はつけずに、全体を百三十字以上百五十字以内で書くこと。
 - ② 両者をそれぞれ、「前者」と「後者」に置き換えて書くこと。
 - ③ 句読点などもそれぞれ一字と数え、必ず一マスに一字ずつ書くこと。(行の終わりや文末にきた句読点なども一マスに一字のみ書くこと。)
- 着眼点** 「別人」に思えるような、両者の違いを明らかにする。

オリジナル問題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

本文

20

15

10

5

本文

45

40

35

30

25

本文

75

70

65

60

55

50

問一 本文中の[A]・[B]には同じ語句が入る。最も適切な語を、本文中から抜き出してそのまま書きなさい。

問二 ——線1「これは、もはや当たり前になってしまった日常風景なのだが、少し引いて見てみると、ある種異様な光景でもある」とあるが、筆者はなぜ「異様」だと思っているのか。最も適するものを次の中から一つ選び、記号に○をつけなさい。

ア 携帯電話などの普及が、情報化社会を生活に浸透させたから。

イ 多くのビジネスマンが、日々パソコンの前で生活しているから。

ウ 多くの人の意識が、仮想現実社会の中にあるように思えるから。

エ 現実世界が何者かにより恣意的に編集され、集約されているから。

問三 ——線2「おもしろいことに」とあるが、筆者はどのような状況を指して「おもしろい」と言っているのか。次の①・②の条件を満たして、八十字以上百字以内で書きなさい。

① 段落はつけずに書くこと。

② 句読点などもそれぞれ一字と数え、必ず一マスに一字ずつ書くこと。
(行の終わりや文末にきた句読点なども一マスに一字のみ書くこと。)

問四 ——線3「不思議ではない」とあるが、それはなぜか。最も適するものを次の中から一つ選び、記号に○をつけなさい。

ア 一人の人のアイデンティティが、「現実に存在する私」と「キャラとしての私」という二つの「私」に引き裂かれてしまうから。

イ 仮想空間上で過ごす時間が増えることにより、「現実に存在する私」は消滅し、「キャラとしての私」としてしか存在できなくなるから。

ウ 「キャラとしての私」として生活する時間が、「現実に存在する私」として生活する時間よりも多くなってしまうから。

エ 「現実に存在する私」の中で、「キャラとしての私」としてのアイデンティティが多くを占めるようになってしまうから。

小説1

過去問例題

○ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

本文

15

10

5

オリジナル

過去問例題

本文

40

35

30

25

20

本文

55

50

45

問一 — 線1「宇宙に二人だけ取り残されたようで急に不安になる」とあ

るが、これと反対の思いを述べた、二十五字以上三十字以内の一文を本文中から抜き出し、そのはじめと終わりの五字を書きなさい。(句読点なども一字と数える。)

着眼点 「宇宙」という語句に注目する。

問二 — 線2「よけい涙が出てきた」とあるが、これを説明したものとし

て最も適するものを次の中から一つ選び、記号に○をつけなさい。

ア 転校した学校での自分のつらい体験は、社交的な兄に話してもわかるはずもなく必死に体裁を保とうとする反面、兄の優しさに甘えてし

まいたい気持ちが強くなってきている様子。

イ 転校した学校での記憶は、兄と二人で星を見ているときにさえよみがえってくるようなひどいものだったが、広大な宇宙は自分の悲しみをいやしてくれるように思っている様子。

ウ 転校した学校で、不条理ないじめにあっていることを、兄には隠しておきたかったのに、兄は何もかも見抜いているようで、無理に明るく振る舞う必要はないと思っている様子。

エ 転校した学校で、自分が友だちも出来ずにいることを、兄には知られたくなかったのに、不意の質問に体裁を取り繕うことも出来ず、自分の意に反して涙が出てきている様子。

着眼点 「違う、違う」という発言から考える。

問三 — 線3「この望遠鏡、学校に持っていったいいよ」とあるが、この

ように言う兄の心情を説明した次の文の空欄に入れる語句として最も適するものを、本文中から、Aは十字以内、Bは三字で抜き出し、そのまま書きなさい。

・東京からの転校生である弟の俊夫が、学校でAことを知って、学校でBができるように、応援している。

着眼点 俊夫に対する、兄の最初の質問をふまえて考える。

問四 — 線4「宇宙は巨大なアルバムだ」とあるが、「俊夫」がこのよう

に考えたのはなぜか。次の①・②の条件を満たして書きなさい。

① 段落はつけずに、全体を八十字以上百字以内で書くこと。

② 「父」「宇宙」という二つの語をどちらも用いること。(全体のどこに用いてもよい。)

着眼点 「アルバム」がどのようなものを意味するのかを考える。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

本文

20

15

10

5

本文

45

40

35

30

25

本文

50

問一 — 線1「その瞬間私は彼が中でやらかそうとしている罪の大きさを

想像しては、歓喜せずにいられなかった」とあるが、それはなぜか。次

の①～③の条件を満たして書きなさい。

① 段落はつけずに、全体を八十字以上百字以内で書くこと。

② 花井の正体について、わかりやすく説明すること。

③ 句読点などもそれぞれ一字と数え、必ず一マスに一字ずつ書くこと。

(行の終わりや文末にきた句読点なども一マスに一字のみ書くこと。)

問二 本文中の□にあてはまるものとして最も適するものを次の中から

一つ選び、記号に○をつけなさい。

ア 生 イ 死 ウ 善 エ 悪

問三 — 線2「それ以上そこにおいて彼の慈善を見せつけられるのは苦しく、

退散しようとした」とあるが、このときの「私」の心情を説明したものを

として最も適するものを次の中から一つ選び、記号に○をつけなさい。

ア 「私」に酷い仕打ちをする花井が、一方では子猫を生かそうとして

いる事実直に直面し、「私」は花井の弱みを握って脅そうという考えが

失敗に終わり、もうこの場にいる必要はないと悟った。

イ 「私」は花井からの苛めを逃れたい一心で尾行を遂行し、彼の弱みを

握ろうとたくらんだが、花井は正体を現さず、立入禁止の洋館に入

ったことだけでは花井を脅すのに不十分であると思った。

ウ 「私」は花井から酷い仕打ちを受けているのに、子猫たちは花井に

よって生かされているという事実を前にして、花井に情けがあることを

知り、子猫以下に扱われている自分がみじめに思えた。

エ 「私」に酷い仕打ちをする花井の本性を見抜いているつもりでいた

のに、子猫に接する花井の姿を見て、自分の洞察が誤っていたことと、

花井との関係における自分の非を認めざるを得なかった。

問四 — 線3「何と花井らしい遊びだろう」とあるが、これを説明したもの

のとして最も適するものを次の中から一つ選び、記号に○をつけなさい。

ア もうずいぶん長いこと何も食べていないようなおぼつかない足取り

の子猫に餌を与えず、その死を弄ぶという無慈悲な行為。

イ 痩せこけた子猫の前で他の子猫たちに餌を与え、その子猫を他の子

猫たちの前で餓死させるという幾重にも酷い行為。

ウ 同じように捨てられていた何匹かの子猫たちの中から、何の落ち度

もない一匹だけを選んで餓死させるという残酷な行為。

エ 痩せこけた子猫をただ餓死させるだけでは飽きたらずに、その子猫

の背中を掴んで遠くへ放り投げるとい陰湿な行為。

問五 — 線4「自分にそっくりな子猫」とあるが、このときの「私」の思

いを説明した次の文章の□に入れる語句として最も適するものを、

本文中から五字以上十字以内で抜き出し、そのまま書きなさい。

・□によって、命を弄ばれている子猫の姿に、学校生活を思いのま

まに操られている自分の姿を重ね合わせている。

随筆 1

過去問例題

○ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

本文

15

10

5

オリジナル

過去問例題

本文

40

35

30

25

20

本文

問一 ——線1「隔靴搔痒」とあるが、これは「靴を隔てて痒みを搔く」と読み替えられる。これを参考にして、本文でのこの語の意味として最も適するものを次の中から一つ選び、記号に○をつけなさい。

60

55

50

45

- ア 腹立たしいこと。 イ つまらないこと。
ウ もどかしいこと。 エ 右往左往すること。

着眼点 靴の上から痒いところを搔くという意味。

問二 ——線2「稽古をいやましにすべし」とあるが、世阿弥は、稽古を積むのは何のためであると言うのか。次の①～③の条件を満たして書きなさい。

- ① 段落はつけずに、全体を五十字以上六十字以内で書くこと。
② 「一時的」「真実」という二つの語をどちらも用いること。
③ 句読点などもそれぞれ一字と数え、必ず一マスに一字ずつ書くこと。

(行の終わりや文末にきた句読点なども一マスに一字のみ書くこと。)

着眼点 『風姿花伝』の引用部を読み取る。

問三 ——線3「なおその過去と私をつなげる一筋の糸がある」とあるが、「一筋の糸」が表すものと対立して用いられている語句を、本文中から三字で抜き出し、そのまま書きなさい。

着眼点 「一筋の糸」とは過去の世阿弥と私に共通しているものである。

問四 ——線4「なぜなら古典とは私であり、私は現代に生きていながら同時に世阿弥の時代にも、近松の時代にも生きている」とあるが、筆者は「古典」をどのようなものにとらえているか。最も適するものを次の中から一つ選び、記号に○をつけなさい。

- ア だれにでも等しく心にしみとおるような感動を与えてくれるもの。
イ 過去と自分をつなぐ言葉で書かれ、存在の喜びが感じられるもの。
ウ 過去の人々から受け継いだ遺産であり、現代人が忘れ去ったもの。
エ 過去から現代へ引き受けるべき日本文学の本質が詰まったもの。

着眼点 傍線部より前の「名状しがたい喜び」と合わせて考える。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

本文

20

15

10

5

本文

45

40

35

30

25

本文

60

55

50

問一

——線1「なにごとにつけ原則に厳しかったのだ」とあるが、これを説明した次の文章の空欄に入れる語句として最も適するものを、ここより前の本文中から七字で抜き出し、そのまま書きなさい。

・「王同志」は、中国当局の決まりどおり、服務員用のトイレやシャワーを使い、「私」の家族から米の提供を受けることさえも拒むような人物であり、仕事場の□□に影響されるようなことは少しもなかったということ。

問二

——線2「一言も発することができず、私は踵を返して家をでたのであった」とあるが、このときの「私」の様子を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、記号に○をつけなさい。

- ア 見てはいけないものを見てしまったと思い、逃げ出した様子。
- イ 動揺して冷静さを失った自身に驚き、立ち去った様子。
- ウ 憤慨のあまり適切な言葉さえかけられず、出て行った様子。
- エ 知られざる一面を見たように思い、黙るしかなかった様子。

問三

——線3「敗北感というのは、字面の理念によつて勝るこの不快感が然らしめたのである」とあるが、この「敗北感」とはどのようなものか。最も適するものを次の中から一つ選び、記号に○をつけなさい。

- ア ルールはルールとして守られるべきだという理念を抱いており、それが破られたときに不快に感じたということ。
- イ 人間には上下はないという思想を抱いているにもかかわらず、実際に、雇員が主人用のものを使ったときに不快を感じたということ。
- ウ 雇員が実際に主人用のものを使ったときに不快を感じ、人間は平等であるという自分の理念が心の中で崩れていったということ。

問四

——線4「そして、不快を感じることで、またぞろ理想への敗北感をつのらせたのである」とあるが、具体的にはどのようなことをいっているのか。次の①～③の条件を満たして書きなさい。

- ① 段落はつけずに、全体を八十字以上百字以内で書くこと。
 - ② 何に対しての「不快」なのかを明らかにして書くこと。
 - ③ 句読点などもそれぞれ一字と数え、必ず一マスに一字ずつ書くこと。
- (行の終わりや文末にきた句読点なども一マスに一字のみ書くこと。)

M・J プロGRESS

国語 解答・解説

論説1

(P2~5)

過去問例題

問一
ウ

解説

問二

(例) 前者は制御しえない力の下に、意志を持たずに宿命を引き受けており、生命存在としての尊厳といってよいものを身に備えているように思える。それに対して、後者は自己制御的で意志を持って行動し、宿命を捨てることによって、生命存在としての尊厳を失ったのではないだろうかと思えるという違い。(137字)

解説

問三
ウ

解説

問四
イ

解説

オリジナル問題

●本文の要旨●

解説

●解答・解説●

問一 現実世界

解説

問二
ウ

解説

問三

(例) メール中心の、仮想現実的なコミュニケーションに慣れてしまうと、実際に対面する現実の存在よりも、メールの相手である情報としての対象に親近感を持つたり、愛着を覚えたりするという状況。(89字)

解説

問四
工

解説

●ポイント

解説

著者紹介

小説1

(P 52～55)

過去問例題

問一 ぼくらは宇ゝじやない。

解説

問二 エ

解説

問三 A: いじめられている

B: 友だち

解説

問四

(例) 父が生きていたところに出発したシリウスの光が、現在の自分がいる地球にもうすぐ届くという宇宙の法則をまえにして、父の姿もよみがえり、宇宙そのものがたくさんの思い出のつまったアルバムのように思えたから。(98字)

解説

オリジナル問題

●本文のあらすじ●

解説

●解答・解説●

問一 (例) はつきりとした弱みを握り花井を脅かせば、「私」は苛めから解放されるばかりではなく、運がよければ、嘘の正義感によって信頼を得ている偽物の君主のような花井を逆に支配できるかもしれないと考えていたから。(98字)

解説

問二 ウ

解説

問三
ウ

解説

問四
イ

解説

問五
花井の中に眠る悪神（9字）

解説

●ポイント●

解説

著者紹介

随筆 1

(P 80 ~ 83)

過去問例題

問一 ウ

解説

問二 (例) たとえ評判を得たとしても、それは一時的な珍しさの魅力による

ものであることを自覚し、真実の魅力を身につけるため。(55字)

解説

問三 外国語

解説

問四 イ

解説

オリジナル問題

●本文の要旨●

解説

●解答・解説●

問一 資本主義的生活

解説

問二 イ

解説

問三
ウ

解説

解説

問四 (例) わが家の風呂に入り、「私」に注意されたことなどなかったかのようにふるまう王同志に対して不快を感じたが、不快を感じている自分を省みて、再び自分の理想が感情に負けたという敗北感を味わったということ。(97字)

解説

●アドバイス●

解説

解説

著者紹介